MHB研究大会予稿集の原稿作成ガイド

2015年度MHB大会実行委員

１．書式など

1. 応募原稿頁数：口頭発表はA4サイズ3ページ。ポスター発表及びデモンストレー ションはA4サイズ2ページ。
2. 用紙サイズ：A4（210mm x 297mm） 　\*レターサイズではありません。
3. 書体：日本語は明朝体またはそれに類するもの。英語はTimesまたはそれに類するもの。
4. 文字の大きさ：タイトルは12ポイント。本文は10.5ポイント。注、参考文献、図表内および図表のタイトルは10ポイント。
5. 余白：上下左右3センチ。
6. レイアウト（1ページの行数と文字数）：1ページ44行、1行40文字。英語の場合は1ページ44行、1行80〜90文字。
7. ファイル形式：ワードファイル（MS　Wordのファイル）
8. ファイル名：発表筆頭者名をアルファベットで、苗字と名前の間にハイフンを入れる。

（例：山田花子さんの場合　YAMADA-Hanako.docまたはYAMADA-Hanako.docx）

* 審査は匿名で行いますので、個人名がわかるような情報（たとえば助成金の情報など）は記載しないでください。
* 発表を認められた方の場合、応募要旨が原則として予稿集原稿として白黒で印刷されますので、網掛けなどの使用や図表は見やすさにご配慮ください。

２．原稿のレイアウト

1. タイトル：ページの1行目、中央。ゴシック体。12ポイント。
2. サブタイトル（もしあれば）：2行目中央にゴシック体。前後に全角ダッシュ（―）を入れる。12ポイント。
3. 英文タイトル：1行空けて、中央にゴシック体。12ポイント。
4. 英文サブタイトル（もしあれば）：次の行の中央にゴシック体。前後に全角ダッシュ（―）を入れる。12ポイント。
5. 名前：1行空けて、次の行に氏名（カッコ内に所属）。右寄せ。複数の場合、名前と名前の間は全角１文字分のスペース。1行におさまらない場合は次の行に。明朝体。12ポイント。
6. 見出し：1行あけて本文の見出し。見出しには節の番号「１．」（全角数字＋全角ピリオド）をいれる。ゴシック体。10.5ポイント。以下、本文は10.5ポイント。
7. 節と節の間にスペース（１行）を入れない。
8. 本文中の記号など：数字は半角（1桁の場合は全角も可）、句読点は「、」「。」を用いる。
9. 図表のタイトル・表の中の文字は10ポイント。図表の直後に新しい説が始まる場合はスペース（１行）を入れる。
10. 注は「文末脚注」とする。数字はアラビア数字。10ポイント。
11. 参考文献は、10ポイント。複数行にわたる場合は２行目以降は全角２文字分下げる。

次のページをテンプレートとしてご利用ください。

タイトルタイトルタイトル

―サブタイトル―

英文タイトル

―英文サブタイトル―

ジョン・スミス（日本語研究所）　山田花子（○○大学）

田中一郎（ABC大学大学院　博士後期課程）

1. はじめに

ここから本文を始めます。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。

　「本文です」と続いていますが、ここも本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。大会は8月7日です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。

1. 日本語教室の授業内容

本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。　（中略）　本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。

　　　　　　　　（中略）

４．調査の結果

本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。

　　　　　　　　　　　　　　表ｘ　表のタイトル（人）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童 | 教員 | 保護者 |
| 2言語使用 | 10 | 20 | 30 |
| 1言語使用 | 40 | 50 | 60 |
| 合計 | 50 | 70 | 90 |

本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。

５．考察

　MHB研究会は2014年時点で会員数300名以上です[[1]](#endnote-1)。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。

参考文献

論文執筆者名(2014)「論文のタイトル」『雑誌名』MHB教育研究会

著者名・翻訳者名(2012)『著書名』出版社

1. MHBホームページを参照した。http://mhb.jp/ (2015年4月19日アクセス) [↑](#endnote-ref-1)